

奄美図書館だより

平成24年9月1日発行
第255号(9月号)
県立奄美図書館

〒894-0016 奄美市名瀬古田町1-1 0997-52-0244

HP address : <http://www.library.pref.kagoshima.jp/amami/>

E-mail address : ama-lib@pref.kagoshima.lg.jp

第21回読書指導者等研修会

7月27日(金)、喜界町中央公民館において、県図書館協会奄美支部主催の「第21回読書指導者等研修会」を開催しました。大島地区内の保育所・幼稚園職員、小・中・高等学校教諭・保護者、親子読書会、公立図書館(室)職員等を対象として、子どもの読書活動を推進するための知識・技能を習得するとともに、読書活動の在り方について研修を深めるための会です。今年度から各島持ち回りで開催することになり、地元喜界町を中心に約90人が参加しました。

午前中は、「読書の風を奄美から～読書活動を広げる～」と題してパネルディスカッションを行いました。喜界町立あゆみ幼稚園 植春美教諭、喜界町立早町小学校 古川桂子教諭、喜界町立喜界中学校 長廣美織教諭が読書活動についての取組を発表された後、フ



ロアから多くの質問や意見が出され、活発に交流がなされました。また、喜界町教育委員会 黒川周一指導主事から、「家庭・学校・地域の連携、幼・小・中・高等学校の連携を大切に読書活動が大切である。」というまとめをいただき、今後の読書活動の広がりを期待しながら終了しました。

午後は、「子どもと読書」と題して、鹿児島県の読書推進種かや読書指導の実際についての講義を通して、研修を深めました。また、休息の時間を使って、喜界町の読書サークル「ころころの会」の方が、喜界町の民話を紹介してくださいました。

最後は、浦安市立図書館司書の伊藤月美さんによる講演「本の楽しさを子どもたちに」。読み聞かせで、子どもはその時に愛情を感じ、思い出し一生心に残る「本という形を手渡すのではなく、本の世界を子どもたちに手渡すことの大切さ」について、本の紹介を通して話されました。

来年度は大和杯で開催されます。さらに充実した研修会にしていきたいと考えています。



第9回ネリヤカナヤ創作童話コンクール ～奄美の子どもたちのゆめがひろがる～

第9回ネリヤカナヤ創作童話コンクールの応募締切が迫ってきました。奄美の豊かな風土・自然に抱かれて育った子どもたちの夢が広がる作品の応募をお待ちしています。

実施要項・第8回までの全作品は、県立奄美図書館でご覧いただけます。また、実施要項・入賞作品は、奄美図書館のホームページでもご覧いただけます。

〔応募締切〕平成24年9月14日(金)



社会慈善に生涯をささげた 奄美唯一の女性実業家 「川崎タミ」

川崎タミは、1882年に笠利町手花部に生まれました。タミが十歳のとき、一家6人は名瀬に移住しました。タミは、母が糸糸の染色を始める頃から細織りを覚え、男にしかできない細織工の技術も習得し、男勝りだといわれるほどになっていました。

1909年、教師である兄の転勤により、タミの家族は与論で生活を始めました。タミは、与論村立細織習所の教師となり、細織工養成のために働きました。織工たちは、その後タミを慕って名瀬に出郷し、名瀬・龍郷・笠利など、細織業は全島的に広がっていきました。

与論を引き上げたタミは、その後結婚し、夫と唐浜の地で焼酎製造業を始めました。これが彌生焼酎の草分けです。当時は、琉球泡盛と鹿児島産の芋焼酎がもてはやされていたので、画期的な事業でした。しかし、1920年に夫が他界すると、タミに残されたのは、米と黒糖を原料とする焼酎製造に執念を燃やしてできた、全財産を売り尽くしても返済できないほどの莫大な借金だけでした。タミは、昼夜の区別なく従業員の先頭に立って働きました。そのタミの誠意が天に通じたのか、事業経営は好調に向かいました。タミは、大島細仲継業・酒類卸小売業を起こして郷土の実業界に巨歩を印し、地域産業の発展に寄与しました。また、巨額の私財を投じて、数々の社会施設の充実や学校教育の振興、母子家庭の救済等に力を尽くしました。

これは、祖国復帰の節目の年に発行されている「郷土の先人に学ぶ」に紹介されています。

「進学支援コーナー」をご利用ください!

2階一般閲覧室にある「進学支援コーナー」では、進路選択の参考にしてもらうため、平成25年度大学・短大・専門学校等の入学案内・募集要項を展示・提供しています。ぜひご利用ください。

資料を提供している学校一覧(8/24現在)

大学

鹿屋体育大学、鹿児島国際大学、第一工業大学、志学館大学、鹿児島純心女子大学、琉球大学、沖縄大学、沖縄国際大学、名城大学

短期大学

鹿児島県立短期大学、第一幼児教育短期大学、鹿児島女子短期大学、鹿児島純心女子短期大学、沖縄女子短期大学

専修学校等

鹿児島県医療法人協会立看護専門学校、タラ看護専門学校、鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校、鹿屋市立鹿屋看護専門学校、鹿児島高等看護学院、公益社団法人出水郡医師会立阿久根市民病院附属看護学校、鹿児島第一医療川'リ専門学校、鹿児島医療福祉専門学校、鹿児島医療事務専門学校、鹿児島医療技術専門学校、南九州医療秘書福祉専門学校、鹿児島県理容美容専門学校、タラ美容福祉専門学校、鹿児島公務員専修学校、今村学園ライセンスアカデミー、野村服飾専門学校、沖縄プライダル・モード学園、タラ・デザイン専門学校、城西プロフェッショナルカレッジ、鹿児島工学院専門学校、県立宮之城高等技術専門学校、鹿児島建設専門学校、鹿児島情報ビジネス専門学校、鹿屋ビジネス専門学校、鹿児島外語学院、神村学園専修学校、鹿児島動物専門学校、原田学園専門学校グループ、沖縄中央学園

お知らせ

参加して
みませんか!

あまみならでは学舎 5

○日時 平成24年9月8日(土) 14:00~15:30

○場所 奄美図書館 4階研修室

○内容 演題 「秋名のアラセツ行事について」

講師 秋名アラセツ行事保存会長 窪田 圭喜氏

※ お問い合わせは、奄美図書館まで。

〒894-0016 鹿児島県奄美市名瀬古田町1-1

TEL 0997-52-0244 FAX 0997-52-9634

9月の行事カレンダー



月	日	曜	行事・催し
9	3	月	休館
	5	水	おはなしの森 15:30~
	8	土	むかしばなしの会 10:00~ あまみならでは学舎
	10	月	休館
	12	水	おはなしの森 15:30~
	13	木	青嶺短歌会 13:00~17:00
	14	金	ネリヤカナヤ創作童話コンクール募集締切 育児サークル「こっちむいて」10:00~12:00
	15	土	あまみ子どもライブラリー 10:00~ 大島地区小学校国語教育研究会 9:00~ 読書会「島にて」10:00~12:00
	18	火	休館
	19	水	おはなしの森 15:30~
	24	月	休館
	25	火	休館(整理研修)
	26	水	おはなしの森 15:30~
	30	日	奄美郷土研究会 14:00~16:30
10	6	土	あまみならでは学舎
	13	土	大島地区ふれあい読書フェスタ(龍郷町)
	26	金	島尾敏徳記念室企画展(~11/15) ネリヤカナヤ創作童話コンクール受賞作品発表
	27	土	読書週間(~11/9)
	28	日	読み聞かせボランティア養成講座

10月の休館日予告



1日(月)・9日(火)・15日(月)・
22日(月)・25日(木)・29日(月)

今月の新着図書コーナー

読書の風を
奄美から

児童

おやゆびさん
風木 一人 鈴木出版

おとうさんのかさ
三浦 太郎 のら書店

おにぎりがしま
やぎ たみこ ブロンズ新社

おじいさんのランプ
新美 南吉 岩崎書店

熱帯雨林のコレクション
横塚 眞己人 フレーベル館

母と子でたのしく遊べるかんたんおりがみ
丹羽 兎子 ナツメ社
その他73冊

郷土関係

シマに生きる
泉 武 同成社

悲しき亜言語帯
仲里 効 未来社
その他10冊

おすすめの本

あかにんじゃ

穂村 弘 岩崎書店

赤忍者は、全身真っ赤な忍者です。赤忍者は、そっとお城に忍び込んでみました。ところが真っ赤な体ですから、すぐに見つかってしまいました。ドロンドローンとカラスに変身し、お城から空へと舞い上がりました。しかし、赤いカラスは目立ちます。すぐに黒いカラスたちに攻撃されてしまいました。ドロンドローンと、今度は赤い蝶に変身します。さてさて、赤忍者の運命は・・・。「がんばれ!赤忍者」「負けるな!赤忍者」と、声援を送りたくなる絵本です。

一般

ささやかながら信じる心があれば
ミッチ・アルボム NHK出版

地域で遊ぶ、地域で育つ子どもたち
深作 拓郎 学文社

なでしこ力 次へ
佐々木 則夫 講談社
その他140冊

小説・随筆

光
道尾 秀介 光文社

レディ・マドンナ
小路 幸也 集英社

よみがえる力は、どこに
城山 三郎 新潮社

傷のあるリンゴ
外山 滋比古 東京書籍
その他38冊

進学・ビジネス支援

ネイリストになるには
津留 有希 ぺりかん社

たまかな暮らし

常盤 新平 白水社

直木賞作家の常盤新平さんが書いたこの本は、主人公の悠三と、その家族のありふれた日常を描いた連作短編小説集です。今ではあまり耳にしなくなった言葉ですが、「たまか」とは、慎ましい様子のことです。言葉だけではなく、「たまか」とは、日本人がわずれか持っている「生き方」の一つかもしれません。常盤さんの静かな文章は、身の丈に合った日々の暮らしの大切さを教えてくれます。背伸びばかりしている私たち現代人を、優しく癒してくれる短編集です。